S. Ashina

＜前回＞オリエンテーション・導入

授業スケジュール

前期：初期キリスト教から古代キリスト教

オリエンテーション――キリスト教思想史について	4/14
１．キリスト教の成立と初期キリスト教	4/21
２．キリスト教の制度化と初期カトリシズム	4/28
３．ヘレニズムのユダヤ教	5/12
４．グノーシス主義	5/19
５．キリスト教教父１――使徒教父、弁証家	5/26
６．キリスト教教父２――オリゲネス、アレクサンドリア学派	6/2
７．キリスト教基本教理の形成	6/9
８．キリスト教の国教化	6/16
９．キリスト教教父３――アウグスティヌス	6/23
１０．研究発表	6/30
１１．研究発表	7/7
１２．研究発表	7/14
１３．研究発表	7/21
１４．研究発表	7/28

＜キリスト教思想史について＞

Ａ．キリスト教思想史の構造

１．なぜ思想史か？　思想と歴史

２．キリスト教思想史、教会史、教理史（Dogmengeschichte）

３．・諸伝統のダイナミズム（内的要因・モティーフ）

・共同体と社会（歴史）：ユダヤ・ユダヤ教、古代地中海世界・オリエント、教会

４．時代区分の問題

初期キリスト教（原始キリスト教、初めの１世紀）、初期カトリシズム

古代／中世／（近世）近代

Ｂ．石原謙（**1882-1976**）　『キリスト教の源流』『キリスト教の展開』岩波書店、1972年。

Ｃ．ペリカンと『キリスト教の伝統　教理発展の歴史』

Jaroslav Pelikan, *The Christian Tradition. A History of the Development of Doctrine*, 1 ～ 5, The University of Chicago Press, 1971-1989. （鈴木浩訳『キリスト教の伝統――教理発展の歴史』全５巻、教文館）

「若干の定義」（**35-45**）

キーワード：教理（doctrine）／教義／神学、教理史、伝統（tradition）

キリスト教思想＞キリスト教神学＞教理＞教義。世界史、一般的な世俗的歴史

＜文献＞

１．Denzinger-Schönmetzer, *Enchiridion symbolorum. definitionum et declarationum*, Herder.

２．Philip Scaff(ed. / Revised by David S. Schaff), *The Creeds of Christendom with a History and Critical Notes*, Baker Book House.

３．『信条集　前編・後編』新教出版社。

１．　キリスト教の成立と初期キリスト教

（1）問題設定・背景――初期キリスト教あるいは原始キリスト教

１．イエスの宗教運動からキリスト教会の形成まで

主要な資料：新約聖書の諸文書　→　新約学の研究領域

＋

隣接分野：同時代のユダヤ教研究

ヘレニズム文化史・宗教史

正典外資料（グノーシス主義諸文書）

２．新約聖書の記述の歴史性

・新約聖書はキリスト教共同体の文書であることをどのように考えるか。

ブルトマン：キリスト教神学はイエスからではなく初期キリスト教団のケリュグマ（宣教）より始まる。

・キリスト教会は単一か？　単線的に展開したのか？

パウロ書簡に見られる対立・論争が示唆すること。

「イエス　→　新約聖書諸文書（とくに福音書）とキリスト教会の成立」

３．「本書においては「原始キリスト教」という偏見のない名称が選ばれる。原始キリスト教の境界線はどこに引かれるか、と問われねばならない」（コンツェルマン『原始キリスト教史』日本基督教団出版局、22頁）、「教会があるいは少なくとも重要な神学的思想家が、使徒時代という理念を作り上げ、それによって自分自身をこの時代から区別することにより､伝統に対して自らの関係を新しく規定する点において明らかな変化が示される。この自意識によれば、境界線はおよそ紀元一〇〇年頃に引くことができる。もちろん、その変化は固定的なものではない。」（23 頁）

「原始キリスト教は統一体ではないのである。」（23 頁）

４．諸文書の成立年代と様々な仮説

・使徒会議(48/49)とユダヤ戦争(66-70)

・文書の最終形態と断片の年代遡及

・二資料仮説とＱ仮説

ベルガーとマックの年代設定をどう評価するか。

（2）諸問題

５．難問

・イエスの宗教運動と初期キリスト教との関係

復活と聖霊降臨の出来事は何であったのか。

・パウロ書簡の正典編入の意味

「ユダヤ教／初期キリスト教／ヘレニズム」の三者関係における、パウロ的キリスト教の生成過程の問題。異邦人伝道（使徒会議）とユダヤ戦争は、初期キリスト教にとって何だったのか。

６．イエスの宗教運動あるいは初期キリスト教の多様性

単線的な歴史像は後の再構成である。

・エルサレムとガリラヤ

マルコ福音書の弟子批判：「マルコとしてはまさにペテロを中心とする十二弟子の権威を批判することを目的として福音書を書いているのである。」（田川、29 頁）

マルコ 1.36, 8.33, 13.3../37../66..

・ヘブライオイとヘレニスタイ

荒井「エルサレム教団におけるいわゆる「ヘブライオイ」と「ヘレニスタイ」の問題をめぐって――使徒行伝６章１－６節に関する教会史的考察」

「エルサレム教団には当初から思想的に相異なる二つのグループが存在していた。第一のグループは、ユダヤ教の伝統に拠って福音を理解し、ユダヤ主義に傾く宣教活動を行っていた」(66-67)、「おそらくはこのグループが主流派を形成していた。これに対して、ステパノによって代表される非主流派が存在した。このグループはおそらくガリラヤにおける初期の自由な、異邦人に対しても開放的な宣教の担い手に遡源するであろう」(67)、「ルカの救済史観によって再構成された歴史像」(69)

・マック「この初期の時代から、イエスの追従者たちの五つの異なるグループ」

「語録福音書Ｑ」を生み出した「Ｑの共同体」／マルコ以前の宣教物語を生み出した「イエス派」／「トマス福音書」を生み出した「真の弟子たち」／マルコ以前の奇跡物語のセットを著した「イスラエルの会衆」／「エルサレムの柱たち」(『誰が新約聖書を書いたのか』青土社、74頁)

７．パウロ書簡の正典化の意味

・異邦人伝道から世界宗教へ

・世俗的共同体への配慮あるいは共存

ヘレニズム・ユダヤ教を背景とした、ローマ市民パウロの存在意義。

↓

ローマ帝国の全体に及ぶ大規模迫害以前の歴史的状況において、ユダヤ教から自らを差異化しはじめたキリスト教会の行った選択？　（あるいは、この選択を行ったグループのみが存続可能であったのか？　しかも、かなり微妙なタイミングであった、70 年のエルサレム神殿崩壊から 95 年頃のドミティアヌス帝のキリスト教迫害の間）

８．ユダヤ教と初期キリスト教

ユダヤ戦争以降の状況が初期キリスト教とユダヤ教の分離・対立を引き起こした。

ヨハネ文書（教団）の歴史的背景。

「ヨハネ福音書におけるキリスト教とラビ的・ファイサイ的ユダヤ教は、対立する両極を示すと同時に、一つの共通の宗教的伝統から生起した事実に、初期キリスト教の形成とユダヤ教の密接な繋がりがあるのである」、「いわゆる独立した宗教としてのユダヤ教とキリスト教の間の抗争と緊張ではなく、一つの宗教内の「キリスト論」理解をめぐる解釈の上の緊張と抗争であると理解すべきであろう。」（土戸、240 頁）

９．キリスト教はいつキリスト教になったのか？　キリスト教とは何か？

「ユダヤ教内にとどまる限りは、イエスをメシアとし、神が遣わされた者、神に全権を委託された者というような位置づけはできるとしても、イエスを信仰の対象とし、あるいは神とすることは無理だったことは想像に難くないからである。あくまでもユダヤ教のヤハウェ信仰を保った上で、そのヤハウェが今や人々に提示している救済の道として自分たちの主張を掲げるのでなければ、ユダヤ教内で活動することはできないだろう。ここから見

ると、パウロはその限界内で可能な最高限度までイエスを「高挙」させ、「全ねの者に優る名を神が与えた」者と看做したが、それを越えはしなかったのである。」(清水、107-108頁)

＜文献＞

０．波多野精一『基督教の起源』（1908年）岩波文庫。
１．F.F.ブルース『イエスについての聖書外資料』教文館。
２．オットー・ベッツ／ライナー・リースナー『死海文書』Lithon。
　　ジェームズ・Ｃ・ヴァンダーカム『死海文書のすべて』青土社。
３．Ｈ・コンツェルマン『原始キリスト教史』日本基督教団出版局。
４．*Das Neue Testament und Frúhchristliche Schriften*. Úbersetzt und kommentiert von Klaus Berger und Christiane Nord, Insel Verlag, 1999.
５．バートン・Ｌ・マック『失われた福音書――Ｑ資料と新しいイエス像』青土社。
６．田川建三『原始キリスト教史の一断面』勁草書房。
７．荒井献『原始キリスト教とグノーシス主義』岩波書店。
８．土戸清『ヨハネ福音書研究』創文社。
９．E.P.サンダース『パウロ』教文館。
10．清水哲郎『パウロの言語哲学』岩波書店。